

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目 次

	ページ番号
(1) 収容定員を変更する組織の概要	2
①収容定員を変更する組織の概要	2
②収容定員を変更する組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	2
①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	2
・ ・ ・ ・ ・	2
②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	3
③収容定員を変更する組織の主な学生募集地域	3
④既設組織の定員充足の状況	4
(3) 学生確保の見通し	4
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	4
ア 既設組織における取組とその目標	4
イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標	5
ウ 当該取組の実績の分析に基づく、収容定員を変更する組織の入学者の見込み	5
・ ・ ・ ・ ・	5
②競合校の状況分析	6
ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析、優位性	6
イ 競合校の入学志願動向等	6
ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等	6
エ 学生納付金等の金額設定の理由	6
③先行事例分析	7
④学生確保に関するアンケート調査	7
(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由	7

(1) 収容定員を変更する組織の概要

① 収容定員を変更する組織の概要

入学定員及び収容定員を変更する短期大学組織は次のとおり。

学科	入学定員	収容定員	所在地
保育科第一部	50	100	兵庫県加古川市平岡町新 在家 2301
保育科第三部	80	240	
短期大学部 計	130	340	

② 収容定員を変更する組織の特色

保育、福祉の意義を広く理解させ、子どもの「生命、生存、発達への権利」を尊重する精神を養い、幅広い教養や十分な専門知識、技能を修得させることにより、豊かな人間性を基盤とする資質の高い保育者の養成をめざす。

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

兵庫大学短期大学部は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神である「和」を育む仏教主義に基づく短期大学として、専門の知識、技能を教授研究するとともに、幅広い教養を養い、豊かな人間性を涵養し、以て社会に貢献できる見識と能力を備えた職業人として有能な人材を養成している。昭和 29（1954）年に睦学園幼稚園教員養成所、翌年の昭和 30（1955）年に睦学園女子短期大学（保育科第二部）を設置して以来、約 70 年にわたり社会に貢献し活躍できる人材を輩出している。

【資料 1】兵庫大学短期大学部の兵庫県出身の入学者数に示すとおり、本学は、県内の高校からの入学者が多く、特に保育科第一部の入学者のうち、兵庫県の高校出身者が占める割合は、直近 5 年全て 90%以上を推移している。また、【資料 2】兵庫大学短期大学部の兵庫県就職者数（兵庫県を所在地とする就職先への卒業生の就職内定者）に示すとおり、兵庫県を所在地とする就職先への卒業生の就職内定率は、毎年 80%を超えていることから、本学は県内出身者が県内の企業に就職する、地域と密着した短期大学であるといえる。

急速に変化する時代の中で、人格形成や国家・社会の形成を担う人材の育成に、教育が果たす役割は大きく、特に、土台となる乳幼児期の教育は重要である。子どもたちが心身ともに健やかに育つ環境を整備することができる、実践力の高い幼児教育の専門家が求められている。

人材需要の動向として、幼児教育・保育の全国的な動向を見ると、「保育士の有効求人倍率の推移（全国）」によると、令和 6（2024）年 1 月の保育士の有効求人倍率は 3.33 倍（対前年同月比で 0.42 ポイント上昇）となっており、全職種平均の 1.35 倍（対前年同月比で 0.09 ポイント下落）と比べると、依然高い水準で推移している。兵庫県に限

定すると、過去 5 年間の保育士の有効求人倍率では、2.21～3.33 倍で推移しており、依然、保育人材の確保が求められている。

〔表 1〕 兵庫県の子育て支援職の有効求人倍率等の状況

	新規求職 申込件数	有効 求職者数	新規 求人数	有効 求人数	有効 求人倍率
令和 2 年 10 月	199	916	695	2,022	2.21
令和 3 年 10 月	168	908	784	2,057	2.27
令和 4 年 1 月	194	830	748	2,099	2.53
令和 5 年 1 月	167	710	520	2,067	2.91
令和 6 年 1 月	138	569	654	1,895	3.33

※出典：こども家庭庁ホームページより

② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

【資料 3】18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移に示すとおり、令和 4(2022)年度の 18 歳人口の 112 万人のうち、大学入学者は 64 万人で全体的にみると微増しているが、短期大学の入学者数は 4 万人で年々減少している。大学・短期大学への進学率は全体で 60.4%、うち大学は 56.6%で短期大学は 3.7%となっている。

そして、【資料 4】近畿地区の 18 歳人口予測（2023～2035 年）に示すとおり、兵庫県における 18 歳人口予測については、令和 17（2035）年の 18 歳人口は 43,712 人で令和 5（2023）年と比較して 5,409 人の減少である。

また、【資料 5】近畿地区の高卒者の進学者数・進学率（現役）の推移に示すとおり、兵庫県の大学進学者数は、平成 26（2014）年は 24,839 人、令和 5（2023）年は 26,547 人で 1,708 人増加しているが、一方で、短期大学進学者数は、平成 26（2014）年は 2,326 人、令和 5（2023）年は 1,265 人となっている。大学進学者数は進学率増加のため 10 年前より多くなっているが、短大進学者は、兵庫県内の進学者数の減少に加え、進学率減少により、わずか 10 年余りで半数近く減少していることがわかる。

今後の人口数は、年々減少傾向であり、短期大学にとって好ましくない状況であるといえる。

③ 収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

本学は、【別紙 1】出身高校の所在地県別の入学者数の構成比に示しているとおり、兵庫県内の高校からの入学者が最も多く、構成比が 90%を超えている。兵庫県以外では、鳥取県、島根県、徳島県、香川県の近隣地域からの入学者も多いことから、本学は兵庫県を中心に中四国地区をターゲットエリアとして、進学相談会への参加や高校訪問等の広報活動を行っている。

以上のことから、本学は兵庫県内及び近隣地域からの高校の入学者が多いが、県内の定員充足状況や教育学の系統区分の定員充足状況から、兵庫県内及び近隣地域の高校生をターゲットとした学生募集は適しているが、募集対象となる学生数が減少していることに留意する必要がある。

④ 既設組織の定員充足の状況

本学の定員充足状況について説明する。

保育科第一部の入学定員充足の状況は、【別紙 2-1】既設学科等の入学定員の充足状況に示すとおり、直近 5 年間の平均入学定員充足率は 63%である。令和 5 (2023) 年度に入学定員を 100 名から 80 名にするなど入学定員充足率の適正化につとめてきたが、令和 6 (2024) 年度の同充足率は 48%まで減少した。

保育科第三部の入学定員充足の状況は、【別紙 2-2】既設学科等の入学定員の充足状況に示すとおり、直近 5 年間の平均入学定員充足率は 104%であり、また【資料 6】兵庫大学短期大学部の収容定員充足状況に示すとおり、令和 2 (2020) 年度から令和 6 (2024) 年度までの収容定員充足率は 91.7%～111.7%で推移している。

保育科第一部の収容定員充足率は、直近の 3 年間は 60%を下回っており、短期大学部全体の収容定員充足率の低下に大きく影響しているが、保育科第三部が一定の入学数を確保できているため、短期大学全体では 80%以上を維持している。

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

学生募集のための PR 活動として、オープンキャンパスとその他の取り組みについて説明する。

オープンキャンパスは年 11 回開催し、受験生を対象として、学部学科紹介、体験授業、個別相談等のプログラムを行い、本学の教育方針、学部学科の学びの特徴や入試制度等の理解を深められるよう工夫している。また、部活動や遠方などで、オープンキャンパスに参加できない受験希望者のために、「個別オープンキャンパス」や「オンライン個別相談会」(いずれも事前予約制)を実施している。「個別オープンキャンパス」では、各回 1 組を対象に実施しており、学科概要、入試、学生生活などについて個別に対応している。「オンライン個別相談会」は、zoom、メール、電話の 3 つの方法から、自分に合った方法で相談をすることができ、いずれも個別の質問等に対応している。

オープンキャンパスの実績は【別紙 3】既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績に示すとおり、短期大学部の令和 6 (2024) 年度入試に係るオープンキャンパスの参加者等総数は 295 人(前年度比 88.3%)、うち受験対象者数は 145 人、うち受験者数は 98 人で、入学者数は 98 人であった。オープンキャンパスの参加者等総数は前

年度の参加者数を大きく下回っており、オープンキャンパス参加の受験対象者からの受験率が共に 7 割に達していないため、参加者等総数及び受験率の改善が課題であると考える。

その他の取組みとしては、入学案内や公式サイトによる情報発信も強化しており、受験生やその保護者を対象とした受験に特化したサイトとして、受験生応援サイトを設置するほか、SNS においては、定期的に記事をアップロードし情報発信を強化している。

また、高校や会場で行われる進学相談会（兵庫県や中四国地区のターゲット県）に参加し、受験生との対面による広報を行っている。その他、教職員の高校訪問により、本学の状況だけでなく、各高校の進路の状況の収集を行うなど、情報交換の場を設けている。

上記の活動に加えて学生確保に向けた具体的な取組内容を審議する委員会として、「兵庫大学・兵庫大学短期大学部学生募集・入試制度検討委員会」を設置している。本委員会では、副学長（教育担当）、経営企画部長、経営企画部次長、入試担当課長代行、広報担当課長代行、各学科教員（学科より各 1 人）が構成員として、本学のアドミッション・ポリシーに基づく学生募集を展開するため、学生募集全般及び入学者選抜に関する事項を審議している。委員会では学生募集に係る総括を行いながら、この総括や社会情勢を踏まえ、毎年度学生募集戦略を策定し、それに基づく多様な戦略を展開している。本委員会の他、「大学運営会議」においても随時、報告がなされ、報告内容に応じた諸活動を展開できるよう、全教職員が現在の学生募集状況等を共有している。

オープンキャンパスの内容を充実させていくこと、本学の情報発信を強化していくこと、高校との関係を強化していくこと、学内組織の募集体制の強化を行うことで、収容定員変更後も入学者の確保を図る。

イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標

収容定員を変更する組織における学生募集の PR 活動については、(3) ①アの内容と同じであり、入学定員確保を目標として、取り組み内容を着実にこなしていく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

本学では、上述したオープンキャンパス、オンライン個別相談、進学相談会、高校訪問に加え、SNS 広報（主にインスタグラムによる授業やクラブ活動を含む日常の学生生活の様子、学内イベント等の情報発信）、附属高校への教育連携講座などの取組みにより、令和 7（2025）年度入試に係るオープンキャンパスの参加者等総数 182 人（前年対比 125%）を見込んでおり、さらに【別紙 3】既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績のとおり過去 2 年間を平均した受験率 70.7%が達成できれば、令和 7（2025）年度の入学者の見込み数は保育科第一部 50 名、保育科第三部 80 名の入学者

を見込めると考えている。

② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析、優位性

【資料 8】兵庫県内競合校の収容定員充足状況の示すとおり、学校種が二年制の短期大学、所在地が兵庫県、定員規模が近い、学問分野が類似しているという 4 点から競合校を選定した。

本学は、【別紙 1】収容定員を変更する組織が置かれる都道府県への入学状況の示すとおり、兵庫県出身の入学生が多く、神戸市から約 30 分で通学可能な立地条件にある。最寄り駅の JR 東加古川駅から徒歩でも通える距離に位置しており、立地条件においても他の大学に劣っていないと考えている。

教育内容については、保育士と幼稚園教諭の資格取得が可能であり、認定こども園や保育園などに多く就職しており、就職率も 100% である。

教育方法については、本学は敷地内に附属幼稚園を併設しており、学生がより深い学びや視点を身につけることができる教育環境等が整っていることは、競合校より優位であるといえる。

イ 競合校の入学志願動向等

令和 5（2023）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）によると、令和 5（2023）年度の短期大学等への入学者数は 35,141 人（前年比△10.9%）、入学定員充足率は 71.99%（前年比△5.60 ポイント）となっている。

競合校の入学定員状況については、【資料 7】兵庫県内競合校の入学定員状況に示すとおり、入学定員を充足している競合校は 1 校のみであり、全国的、地域別に見ても短期大学への入学志願者は減少傾向である。競合校も入学定員の適性をはかるため、本学と同様に入学定員を減じ、収容定員の適正化を図っている。

ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

今後の定員充足の見通しについては、上述したオープンキャンパス等への取組みによる受験対象者の参加者増加を図ることにより、【別紙 2-1】【別紙 2-2】既設学科等の入学定員の充足状況に示す、保育科第三部の直近 5 年間の平均入学数 83 名の確保、及び保育科第一部の直近 5 年間の平均入学数 58 名の確保を見込んでいる。

さらに保育科第一部の令和 7（2025）年度入学定員を 80 名から 50 名に減ずること、令和 7（2025）年度の短期大学部の収容定員充足を図る。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学の初年度納付金は、【資料 7】兵庫県内競合校の学納金に示すとおり、1,325,750 円となっている。物価高騰が続いている状況ではあるが、入学定員変更の際に変更することなく、現行と同額とする。

学生納付金等については、学生の過大な負担とならないこと、他大学との競争力を維持できる妥当な金額であること等、総合的に配慮し、兵庫県内の私立短期大学の学生納付金等も参考にしながら金額を設定している。本学の初年度納付金は競合校と比較すると、相対的に若干高い設定になっているが、入学金の設定は競合校の平均額と同等程度である点や、また、本学独自の奨学金制度や、日本学生支援機構並びに民間金融機関の奨学金支援が整備されていることに加え、延納申請ができる点等を踏まえて、本学は学生及び保護者の経済的事情に配慮しており、現在の学生納付金の設定は適切なものであると判断している。

③ 先行事例分析

先行事例がないため、省略。

④ 学生確保に関するアンケート調査

収容定員変更に係る学則変更の届出のため省略。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

兵庫大学短期大学部の卒業生の就職状況は、【資料 10】兵庫大学短期大学部の就職・進学等の状況に示すとおり、直近 3 年間の就職希望者に対する内定率（希望者就職率）は、100%となっている。また、公務員採用にも力を入れており、令和 6（2024）年 3 月卒業生では、公立園に現役で 11 人を採用させるなど、高い就職実績を有している。

さらに、兵庫大学短期大学部への求人は、3 年連続で定員を超える求人社数となっていることから、本学の養成する人材は、社会において需要があると考えている。

（4）収容定員を変更する組織の定員設定の理由

全国的に保育士の需要は高まっている一方で、18 歳人口の減少や短大進学率の低下が課題となっている。その影響で保育科第一部の入学者数は減少し、短期大学の収容定員充足率の低下を招いている。一方で本学の保育科第三部は一定の入学者数を維持していることから、これまで説明したとおり、さまざまな募集活動の取り組みにより、【別紙 2-2】既設学科等の入学定員の充足状況の平均入学者数を確保できている。さらに保育科第一部の定員を現在の 80 名から 50 名に変更することで、令和 7（2025）年度以降の短期大学部の収容定員充足率は約 90%となり、このたびの入学定員減は適切なものであると判断している。